

JASIS

NEWS

No. 57

2016/9/30

日本インテリア学会会報

■会長挨拶

小原二郎先生と日本インテリア学会の創設

学会長 直井英雄（東京理科大学）

本年6月の本学会総会直前に、初代会長の小原二郎先生がお亡くなりになりました。総会でも、ご参加の方々と一緒に黙とうを捧げましたが、ここに改めてご冥福をお祈りいたします。

さて、小原先生が建築・インテリアの広い範囲にわたって多大なる業績を残されたことは、誰しもがよく知るところですが、その中でも日本インテリア学会の創設は、先生ご自身にとっても、ことのほか思いのこもったお仕事であったのではないかと私は推察しています。

先日、本学会編の「インテリアの百科事典」が丸善から出版されましたが、小原先生がお書きになった「序—わが国におけるインテリア成立の記録—」にも、本学会の創設に至る経緯が熱く記述されています。私の独断で要約しますと、戦前・戦後の教育機関におけるインテリアの前身たる木材工芸へのやや低い扱い、時代の要請に応じた先生の人間工学への取り組み、インテリアという言葉を一語を一般化する上での苦労、わが国におけるインテリア産業の成立・進展とその中で先生も指導力をふるわれた「インテリアコーディネーター」や「インテリアプランナー」の資格の創設、などが先生ご自身の語り口で述べられ、そして文章の最後の段落では、日本インテリア学会創設の理由についても触れられています。すなわち、平成元年、当時における「インテリアの分野に残された課題」として、本学会を設立するに至ったのだということです。この「序」は、わが国における「インテリア」成立の、いわば貴重な証言ともなっていると私は考えています。皆様、

機会があったら、ぜひ目を通していただければ幸いです。

ところで、先生のお書きになった、この「インテリアの分野に残された課題」という言葉の意味ですが、実は私にはピンと思いついたふしがあるのです。本学会に私も参加するよう先生から直々に説得された折、先生が熱のこもった強い口調で説かれていたことを、今でも鮮明に覚えています。「どの業界でもそうであるように、インテリアの業界でも、業界全体の健全な発展のためには、職能や資格の確立だけでなく、しっかりした学を背景に持っていることが不可欠で、その学を中心として、どうしても学会が必要なのです」と。たぶん先生は、当時のインテリア産業は華々しいように見えても、まだいわば画龍であって、天高く昇っていくためには、「学」という点晴が必要だとお考えになったのではないかと思います。表現が、ちょっと我田引水に過ぎるかも知れませんが。

なお、このことに関して、最後に、この「序」の執筆を、上野先生と一緒に小原先生に頼みに伺ったときのエピソードをご披露しましょう。先生には、「事典」出版のご報告かたがた、実は1ページに収まる短い推薦文を依頼したのです。先生は、この出版をことのほか喜ばれ、推薦文も快く引き受けてくださいました。ところが、出てきた原稿を見たら、上述したような記録が数ページ分も書かれてあったのです。つい力が入ってしまわれたのでしょうか。正直ちょっと悩みましたが、関係者相談のうえ、純粋な推薦文の部分を取り離し、インテリア成立の記録部分は「序」として載せることで落ち着いたのです。

先生は、残念ながら「事典」の発刊を前にして亡くなってしまわれましたが、今にして思えば、この「序」は、われわれ学会関係者に向けた先生の遺言であるように思われてなりません。先生のこの熱い思いをしっかりと継承しながら、皆様と力を合わせて学会を守り育てていかなければと、気持ちを新たにしているところです。



小原二郎先生に黙祷

■小原二郎先生を偲んで……

追悼・小原二郎先生

元千葉工業大学教授 渡辺 優

五月に入ってからのある日、「小原先生ってそろそろ100歳ではないのかな」と考えていました。その後しばらくして、千葉工業大学などで相棒のように親しくしてきた上野さんから電話がかかってきました。何となく予感がして、アレでなければよいのだと思ったのですが、やはり先生の訃報でした。あと半年ほどで100歳を迎えられるところだったそうです。

ボクはある時期、先生がリーダー役をされている会合などにしばしば駆り出されていたので、子分役や番頭役のように見られることもあったようですが、面識を得てしばらくの間は、ちょっと挨拶をする程度の遠くて怖い存在でした。

先生の人間工学の研究は、室内や家具などのデザインをしているボくらにとっては、たいへんインパクトのあるものでした。その内容が詳しく、しかも解りやすく記載されている「建築・室内・人間工学」という本を仕事場のいちばん手近なところに置くようになりました。それが出版された1969年以前は、アメリカの工業デザイナー・ヘンリー・ドレイファスの資料を人体各部の寸法関係を知るより所としていたことを思い出します。

日本のインテリアデザインの分野や関連する業界における先生の功績がたいへん大きいことは、今更述べるまでもありませんが、もともとの研究分野は「木の文化」のようです。先生の出身地は木曾ですし、大学も京都大学の林学科ということですから。木のこと、建築のこと、人間工学のこと、それらをベースにしたエッセイ風の文章も先生ならではのものですが、文筆家としての評価も高く、何冊も単行本として出されているほか、雑誌などの

連載依頼も気楽に受けられていました。文章を書くことが好きだったのでしょう。

あるとき……おそらく80歳近くになられていたと思いますが、総武線の電車の中で立っている先生と出会ったことがあります。手には原稿の束を持ち、鉛筆で盛んに何かを記入されていました。原稿の校正をされていたのでしょうか。先生は並みの凡人とは違う「超人」でした。

小原二郎先生、本当にいろいろとお世話になりました。

小原二郎先生を偲ぶ

武蔵野美術大学名誉教授 島崎 信

(日本インテリア学会顧問)

小原二郎先生が、お亡くなりになられた、という第1報をいただいた時一瞬、「亡くなられた」ということと、あのバイタリティに豊まれた先生とが結びつかず、一種の戸惑いにも似た想いに包まれました。

先生とのご縁は、記憶は前後しますが、飯田橋あたりで聞かれた、先生の勉強会に坂田種男さんに誘われて参加したのが初めてだったのでしょうか？

それとも豊口克平先生の下、武蔵野美術大学のインテリア研究室の一員として旧国鉄の列車の座席、寝台の開発プロジェクトに参画した時だったかも知れません。

その面識をいただいた後、先生は千葉大、千葉工大の多くの俊英をいだかれて居られるにもかかわらず、私にもお声をかけて下さいました。私は東京芸術大学卒のいわば他所者にもかかわらずデザイン以外の新しい分野を体験する機会を与えて下さいました。

企画の段階からかかわらせていただいた「インテリアコーディネーター制度」では、試験委員長を10年勤めさせていただき退任の後も長い期間、インテリア、ハウジング業界の知識と体験を得ることが出来ました。その折に接した小原先生の時代を先取りする感覚と広い分野への好奇心に驚くことがしばしばでした。

そして、ひとつのプロジェクトを「やろう」と決められた後の行動力と組織力は他に類を見られない程のものでした。

日本インテリア学会の設立準備の段階で「インテリアは生活の場づくり」「建築、工学、商品、家政など横断的の分野である」という考え方を承認して下さいました。そして、お叱りをうけるかと思った提案「建設、文部、通産等の諸官庁にかかわらないでの発足」に「それで行こう」という、新しい決断の笑顔は忘れられないものでした。

日本インテリア学会での小原先生の会長在任中、副会長として勤めさせていただいた期間は、創設期の組織づ

くりに専念しました。

そして、「これからはアジアだ」として日中韓の学会交流にも先生の見識と実行力による「足跡」にふれることの出来た幸に感謝するばかりです。

先生の最晩年に学会の顧問となって活性化に働き、というご指示をいただきながら非力の為ご期待に沿うことが出来なかったことを、お許しいただきたいと願って居ります。

小原二郎先生とのご縁とその想いは数限りなく、今はただ御冥福を深く心よりお祈り申し上げます。

合掌

小原二郎先生を偲んで

東京大学名誉教授 高橋鷹志

この5月12日に小原二郎先生が逝去された。これ聞いて深い悲しみに落ち込んでしまった。小原先生との出会いは、記録によると昭和49年（1974年）で、私が名古屋工業大学から東京大学へ移転した年であった。しかし、最近もの忘れが進み、小原先生とどのような機会にお会いしたかを思い出すことができない。

しかし、小原先生のインテリアや人間工学に関するお話や御葉書をいただいて、私の興味は建築計画から人間行動研究へと移行したのである。そして、魚眼レンズを使った外部空間の識別やパーソナル・スペースあるいは指示代名詞の実験研究を行い、「空間の知覚的尺度に関する研究」の博士論文をまとめることができた。これも小原先生の御指導によるものと深く感謝する次第である。

更に私が先生に対して感動するのは、研究業績の高さや御著書の数である。その数は30冊になる。手元にある先生が監修された「インテリアの人間工学」の「第11章、インテリア産業が誕生するまでの歴史」の中で「インテリア下着論」について記述されているが、そうしたミクロなインテリア学について触れておられることに感銘したのである。

更に時が過ぎて、平成元年（1989年）に、先生を会長として「日本インテリア学会」が発足し、先生を会長としてインテリアに関する研究が拡充されていったのである。そして今年10月に第28回大会が名古屋工業大学で開催される。


更に、小原先生の御長寿にも驚きであり、過日「百歳を祝う会」についておたよりを載き、祝詞のハガキを送るようにとの連絡があり、改めて先生の生き方に深く感動を覚えたのである。私も先生に見習って人間行動やインテリアに関する研究や考察を進めるべきだと深い思

いで一杯である。

謹んでご冥福をお祈り申し上げる次第です。

師の旅立ち

「小原先生を囲む会」幹事代表 栗山正也



平成28年5月12日、
東京都杉並区善福寺2-28-9、
小原二郎 様

冠省、今年も輝く季節となりました、皆様もそれぞれ置かれた場所で、それぞれに花を咲かせておられると思います。
昨年二月、80歳を迎え皆様からお祝いの葉書をいただき、皆様の篤い思いに感謝し、私の長寿を喜びました。そのお礼を兼ねて、百歳の近況を伝えようとしていた中で、まさに人生最後に驚くべきことが起こりました。私著書「法隆寺を支えた木」が英訳されることになったのです。
出版文化産業振興財団は海外へ日本文化を伝えるために、日本の本を英訳し海外の図書館へ納める事業を行って、年目になります。本年英訳し出版する本の候補の冊に選ばれました。まことに珍しく有難いことですが、そのための作業に追われてこの春を迎えました。その後体調を少し崩したことが、皆様への便りが遅れた原因です。
今は介護の方の親切に頼って家内と二人の生活を続けております。
お礼とともに近況をお伝えしました。
敬具、

この「書状」の日付けは先生が急逝される前日の日付です。

そして5月12日、ご家族に看取られて安らかに旅立たれました。

真に成すべきことをすべて終えたかの如くに……。

書状にある“人生最後の驚くべきこと”……。

それは、2014年度からスタートした[JAPAN LIBRARY]という政府と民間が協力して海外に日本文化を紹介する事業があり、日本で出版された広範にわたる書籍から年に数冊を厳選し英訳出版し、海外の大学図書館など主要な図書館に寄贈するプロジェクトです。その2015年度に対象とされた5冊に「法隆寺を支えた木」が選定されたのです。ちなみに、「日本人と日本文化―ドナルド・キーン著」も同時に選ばれています。

師の最後の仕事は「小原イズム」を世界に発信することでした。

それを確認し終え、彼方の地へ旅立たれたことをここに報告させていただきます。

「日本インテリア学会」生みの親、小原二郎先生を偲ぶ

上野義雪

私は千葉大学から千葉工業大学に赴任した最初の大仕事、日本インテリア学会設立の準備であった。そのかじ取りをされたのが小原二郎先生で、1982年に千葉大学をご定年で退官され、その年に千葉工業大学に赴任された。学会設立の準備は、1988年7月のインテリア研究会開催に始まり、1989年に設立発起人会開催の後、同年6月17日に設立総会が開かれて日本インテリア学会が産声をあげた。小原二郎初代会長が誕生し、その後2003年度に会長を退かれた。その中で設立準備から小原会長を支えてこられた渡辺優先生の存在は忘れてはならない。

学会は、これまでにいくつかの難題に直面してきたが、小原先生の的確な対応のお蔭で今日の学会がある。

小原先生は2009年に千葉工業大学を退職され、以降の先生と私との連絡は電話か手紙であったが、電話での声は聴きとり難いとのことでいつの頃からか葉書に変わった。いただく葉書には、学会事務局の対応に対する感謝と心配されるお言葉が綴られており、いつも学会のことを気にされておられた。

これまでに小原先生からのお言葉で最も有難かったのは、千葉大学の卒業生による書籍「いま、わたしは」の末尾に小原先生がお書きになられたお言葉である。ご興味があればお読みいただきたい。そして、小原先生が最後に筆を執られた日本インテリア学会編「インテリアの百科事典」(丸善出版)の4頁に及ぶ「序」は是非ともお読みいただきたい。

小原先生については多くを語りたいが、いつかは、まとめておきたいと考えている。

以上の様に、小原二郎先生の長年に及ぶご業績に対し、日本インテリア学会会員と共に深甚なる敬意を表しますと共に、日本インテリア学会の発展に尽力をされました先生を偲び、ここに深くご冥福をお祈りいたします。

合掌

先生を偲びて

金沢美術工芸大学名誉教授 小松暁一

思い起こせば小原二郎先生と最初にお会いしたのは、昭和54年(1979年)金沢で第1回石川県デザインシンポジウムを催した際に、講演者としてお招きした時でした。講演後もう少しお話しをお聞きしたいと思い、声をおかけしたところ「飛行機の出発時間までに大分時間がある」ということだったので、小料理屋へお誘いしたことを今でも懐かしく覚えています。先生は金沢料理をた

いそう美味しいと喜ばれていました。早、37年も前のことになりました。

それ以後、事あるごとに金沢を訪れていただけるようになり、私が島崎信氏との交友を話すと、より一層交際を深めさせていただき、インテリア学会へのお誘いを受け、入会することになりました。そんなお付き合いをさせていただき、平成10年11月に日本インテリア学会北陸支部設立となりました。

その後も理事会や大会でいろいろとお話しさせていただいたことが懐かしく思い出されます。

最後にお会いしたのは、先生が大学を退かれた後かと思いますが、「小松君、今度妻を金沢へ連れて行こうと思うのだが、案内してくれないだろうか。」と連絡をしてこられ、奥様とご一緒にお会いしたのが最後だったかと思えます。奥様はずっと金沢へ行きたいとおっしゃっていたようで、良い妻孝行ができた喜んでおられました。奥様のご希望で長町武家屋敷跡、室生犀星文学碑、加賀友禅会館などをご案内したことを思い出します。その時の先生の足の速さには驚いたものです。

近年、私は足の具合悪く、思うように出掛けられなくなり、すっかりご無沙汰してしまっていました。先生のご逝去の知らせをお聞きし、とても残念でなりませんでした。

小原二郎先生は、私の人生にとって忘れられない大切な師であります。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

合掌

■平成28年度日本インテリア学会 総会 議事録

総務委員長 白石光昭(千葉工業大学)

記録 早野由美恵(東北芸術工科大学)

日時:平成28年6月18日(土)13:30~14:30

会場:千葉工業大学 津田沼校舎

出席者:直井、加藤、西出、上野、内田、片山、金子、川島、河田、河村、栗山、小宮、白石、鈴木(敏)、建部、長山、早野、平田、渡邊(秀)

<以上理事19名>

高橋(鷹)、橋本(都)、清水、村川、松崎

<以上評議員5名>

桑原、高月、武田<他正会員3名>

配布資料:

- 1)平成28年度日本インテリア学会 総会資料
- 2)平成28年度役員・組織(案)

- 3) 平成27年度日本インテリア学会総会議事録
- 4) 平成27年度支部・部会・委員会報告
- 5) 日本インテリア学会第23回卒業作品展
- 6) 被災地支援としてのインターンシップ

議 事：

1. 開会宣言（議事進行：金子）
本年5月にご逝去された小原二郎名誉会長に対し、黙祷を捧げた。
2. 会長挨拶（直井会長）
必要な組織の見直しにより、学会活動を充実させ、更なる発展に協力を得たい旨を述べた。
3. 定足数の確認（金子）
出席者は27名、委任状99通、合計126（定足数90）で、総会の成立に必要な定足数（会則15条）を満たしていることが確認された。
4. 議長選出
議長および書記の選出に際し、事務局案により議長を直井会長、書記を早野理事、議事録署名人を平田理事、金子理事の2名に依頼し、直井会長の進行により、議事に移った。
5. 第1号議案：平成27年度 事業報告および決算報告（案）の件
 - ・白石総務委員長より、平成27年度の事業報告および決算報告（案）について、資料1に基づき説明があった。
 - ・決算報告＜収入の部＞、論文掲載料の増加により収入が増えた。
 - ・決算報告＜支出の部＞、大会梗概集、論文集の件数が増え、印刷代が増加した。
 - ・佐藤・上野（弘）両監事による監査報告（松崎代読）があり、平成27年度の事業報告および決算報告（案）は、資料1（P1）の通りで、異議なく承認された。
 ※資料の訂正：支出の部、大会準備費欄「第26回大会→第27回大会」
6. 第2号議案：平成28年度 事業計画および予算（案）の件
 - ・白石総務委員長より、平成28年度の事業計画および予算（案）について、資料1（P2）に基づき説明があった。
 - ・予算案＜収入の部＞経費削減策にも限界がきている。
 - ・予算案＜支出の部＞来年度の評議員及び理事選挙に備え、予備費30万円を計上した。
 - ・平成28年度の事業計画および予算（案）について、資料1（P2）の通りで、異議なく承認された。
 ※資料の訂正：支出の部、大会準備費欄「第27回大会→第28回大会」
7. 名誉会員の推薦について（白石）
 - ・本日の理事会において大森豊裕氏、灰山彰好氏、森保洋之氏、湯本長伯氏、若井正一氏の5名を名誉会員として推挙することが承認された。今年度の大会

時に名誉会員の称号を授与する。

8. その他
 - ・資料1（P3）・資料2の「組織図」の見直しについて、総務委員会会議で進めていくことが確認された。
 - ・新たに表彰委員会を設置し、卒業作品展、大会発表賞などは、この設置委員会が担当する。
 - ・広報委員会の委員長を、湯本氏から棒田理事に交代する。
 - ・国際委員会の委員長を、加藤副会長からペリー評議員に交代する。
 - ・東海支部長の河田理事より、今年度大会の案内があった。10月22日（土）、23日（日）名古屋工業大学にて開催する。鶴飼学長が大会長、実行委員長は河田支部長が担当する。講演会は元日建設の佐藤義信氏にお願いし、研究発表会を2日目の午後に行う。大会専用の銀行口座が作れないため、大会参加費等は支部口座への振込みとなる。
 - ・教育部会の高月会員より、今年度大会での第23回卒業作品展開催について説明と協力の依頼があった。大会での審査後、北陸支部を中心に各所の協力により巡回展の開催を予定している（資料5）。
 - ・川島理事より「被災地支援としてのインターンシップ」の案内があった（資料6）。7月9日（土）に日帰り、4大学が30枚のパネルを作成し、陸前高田市の仮設住宅に設置する。9月3日（土）4日（日）には、陸前高田市看板完成懇親会+復興見学会を予定している。
 - ・直井会長より「インテリアの百科事典」（丸善）出版にあたり、多くの会員から協力を得られたことに謝意が述べられた。加藤副会長より、この百科事典の印税について質問があり、初版分は著者に配分され、増刷された場合は、学会に入るように契約したとの回答があった。

以上

なお、閉会後に高橋名誉会長からご挨拶をいただいた。



総会事務局報告



高橋名誉会長ご挨拶



懇親会 直井会長ご挨拶



賛助会員企業紹介 マナトレーディング(株)



賛助会員企業紹介 三井不動産リフォーム(株)

■第28回大会（東海）準備概要

大会実行委員長 河田克博（名古屋工業大学）

本年度の大会は、2016年10月22日（土）～23日（日）に、名古屋工業大学にて開催いたします。およそのタイムスケジュールは、以下のとおりですが、最終的な内容は、10月発行の論文梗概集に同封のリーフレットをご覧ください。

*10月22日（土）

■見学会 13:00～17:30（受付12:20～、13:00にはバス出発いたしますので、遅れないようにご到着ください）

集合・解散場所：名古屋工業大学正門をいって右横
見学建物：「建中寺」「揚輝荘」「龍興寺」

■懇親会 18:00～20:00

場所：大学内レストラン café sala

（名古屋工業大学正門をいって右側（南側）すぐ）

*10月23日（日）

■開会式 9:30～9:45（受付開始9:00）

■論文発表・第1部 10:00～12:00

■昼食・理事会 12:00～13:15

（理事会は12:10より）

■論文発表・第2部 13:30～14:30

■講演会 14:45～16:15

佐藤義信氏「現代和風の態様」

■閉会式・表彰式 16:30～17:30

※この間、卒業作品展 9:30～15:30

皆様のご協力で、現在参加者79名となりました。盛会を期する次第です。

なお準備の都合上、今後の見学会・懇親会への新たな参加はご遠慮ください。

■平成28年度運営委員会だより

□総務委員会

総務委員長 白石光昭（千葉工業大学）

本年度も無事総会を終了することができましたことをご報告いたしますとともに、会員の皆様のご協力に感謝いたします。なお、総会の議案等の詳細につきましては、総会議事録をご覧ください。いただければと思います。

概括いたしますと、やはり学会活動のための「会費収入」が伸びておりません。皆さんの学会活動にずいぶん無理を強いていると思いますが、敢えて最近3年間はほぼすべての活動費を毎年何%削減させていただいてきました。しかし、それもほぼ限界にきております。当学会の今後を考えますと、まずは会員数の増加が必須のことと思われまます。

加えて、理事会等においても例年繰り返して話される内容ですが、「学会の活性化」とともに「若い正会員の減少」があります。これらの対策について、学会全体で取り組まなければいけない時期にきていると考えております。会員諸兄からの活発なご意見をお願いしたいと思います。

なかなか不慣れな仕事のため、皆さんにご迷惑をおかけするとともに、不快な思いをさせてしまうことも多々あると思いますが、会員の皆様から是非いろいろのご意見を頂き、より良い学会運営をしていきたいと考えておりますので、ご協力よろしくお願いいたします。

□広報委員会

委員長 棒田邦夫（金沢学院大学）

今年度より広報委員長として学会の広報を担当することになりました。右も左も分からない状態での第1歩となっていますが、学会の情報発信を担う委員会として機能できるよう頑張りたいと思っております。

また、運営にあたりましては委員会委員への情報提供が何より重要です。引き続き皆様のご協力をお願いいたしたく存じます。よろしくお願いいたします。

1. 広報委員会委員について

広報委員は、小俣祐樹（トランスコスモス株式会社）、松田奈緒子（京都工芸繊維大学）、棒田邦夫（金沢学院大学）です。ご了解いただいた委員は現在3名ですが、各支部より1名のご推薦をお願いいたしたく存じます。

2. 会報について

会報は、総会後の8月と大会後の12月、3月の年3回の発行をしていきます。その際、この3回の会報編集を支部の広報委員によるローテーションによって実施していきたいと考えております。また、会報の印刷費を抑えるためにページ数を12ページまたは16ページとし、記事もこのページに収まるよう必要最小限としていきたいと考えております。現在そのためのフォーマットを作成しております。なお、会報に盛り込めない分につきましてはホームページを活用し、ホームページを充実させていきたいと考えております。

3. ホームページについて

当学会の新しいホームページがアップされて4年。ホームページへの活用も少しずつ進んできているように感じます。また、ホームページアップの当初に比べて

掲示内容も増えてきています。ここで、もっと活用されるようページの充実を図っていく予定にしております。

広報の業務は、学会への興味から始まって関わりたいと思わせる内容の充実を図ることと思います。そのためには皆様のご協力が重要です。よろしくお願いいたします。

なお、広報委員会へのご連絡、原稿送付は下記のメールアドレスをお使いください。

Mail : jasis.koho@gmail.com

□国際委員会

委員長 ペリー史子（大阪産業大学）

今回はありません。

□論文審査委員会

委員長 渡辺秀俊（文化学園大学）

アジア地域のインテリア系の学会論文集AIDIAについては、タイのAIDIA事務局から8月3日に論文募集の連絡がありました。9月25日が採用論文送付の締切とのことですので、この間に本学会のホームページにおいて、論文募集の告知をし、応募された2編の論文を、現在、本学会において審査中です。論文募集から審査終了まで2ヶ月足らずという大変短い期間であったため、応募していただいた皆様、査読していただいた皆様には、大変なご負担をおかけしたことをお詫びいたします。論文の発行は、例年通りとすれば年末か年明けの予定です。

AIDIA事務局からの募集告知と募集締切までの期間は年々短くなる傾向にあります。それにともなって、本学会での募集告知と募集締切までの期間も短くなりがちです。会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、毎年、この時期にAIDIAの論文募集があるとお考えいただいて、早めに論文執筆の準備をしていただけましたら幸いです。

JASISの国内論文については、例年10月末が募集締切です。今年の詳細については、本学会のホームページにて告知させていただきます。多くの会員の皆様からの論文投稿をお待ちしております。

■平成28年度支部だより

□北海道支部

支部長 小澤 武（小澤建築研究室）

伝建の修復に思うこと

設計事務所の業務で手一杯で、停滞している支部活動

の打開策に悶々としています。

今回は昨年完成した修復民家について報告したいと思います。

函館山北東麓の函館港に向かって広がる、いわゆる西部地区の伝統的建造物群保存地区（伝建）内、大三坂に面する間口3間奥行6間、総2階建、築大正10年の一階を天然酵母のパン屋兼陶芸ギャラリーにコンバージョンした、木造在来工法による典型的和洋折衷様式の住宅である。

まち並の構成要素である外観に関してはデザインコードに基づき文化庁の審査をクリアしつつ、頼りない基礎と無断熱を現行の寒冷地基準に近づける工夫に頭を悩ました。

外装の制約から、コストを考えると気密・断熱層は室内側にフカすのが一般であるが、真壁のインテリアを復元するために難易度の高い外断熱（基礎含む）のディテールを工夫し、引き違い・上げ下げ窓は既存建具を修復再利用し、Low-Eペアガラスで仕立て直した。

重要文化財ではこのような仕様変更は認められないでしょうが、伝建で暮らし後世に引き継いでいくことを主眼に置くと、最低限の性能と真壁のインテリアは守りたかった。

真壁とは構法の一つで、柱を下地材として壁装材で覆ってしまう大壁とは壁厚30mm程度の違いで、空間を決定してしまうほどインテリアファクターとしての強さを持っている。

伝建と生活の両方を守っていくことの意義を再認識する時間を与えていただきました。



□東北支部

支部長 早野由美恵（東北芸術工科大学）

今回はありません。

□北陸支部

支部長 棒田邦夫（金沢学院大学）

北陸支部では、なかなか時間が取れなくて大会発表が

できない北陸会員のために、支部主体による発表会・講演会を11月末若しくは12月上旬に予定しています。

□関東支部

支部長 内田和彦（株式会社岡村製作所）

平成27年度後半の活動及び平成28年度の活動をご報告します。支部活動においては革新的な一歩を踏み出したと思いつつも、なかなか変化を生めずに苦しんでいる状況ですが、着実に歩みを進めていきます。支部会員の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。

①27年度関東支部見学会

平成27年12月19日に見学会を開催しました。高齢期の豊かな暮らしを目指す室内計画をテーマに高齢者施設向けの家具製作現場（光リビング）にお邪魔し、配慮点などをお聞きしながら見学をした後、西田恭子氏（三井のリフォーム住生活研究所所長）をお招きしご講話いただきました。

②支部ニュース発行

平成28年3月31日に支部ニュースを発行しました。27年度に行ったアンケート調査の報告と27年度の講演会・交流会の報告などを掲載しました。

③関東支部交流会開催報告

平成28年6月25日に会員相互の交流と事業推進を目的として支部交流会を開催しました。今年度はモクチン企画が運営するカマタクウチを訪問し、木造賃貸住宅のリノベーションを活性化するためのレシピ集「モクチンレシピ」やモクチン企画の作品としてのマンションの1階を外側に開きショップ化した事例の見学なども行いました。最後にカマタブリッジに異動し、講話の後、懇親会を行いました。

□東海支部

支部長 河田克博（名古屋工業大学）

2016年7月2日（土）に、名古屋工業大学にて支部総会を開催しました。この時の議題は、通常の活動報告・会計報告などに加えて、本年10月に大会を名古屋で開催するための実行委員会を正式に立ち上げたことです。大会予定内容の概要は、「第28回大会（東海）準備概要」をご覧ください。

また、総会の後、名古屋市内にある茶室の柏露軒（登録有形文化財）を見学しました。13名の参加でしたが、所有者の神谷昇司先生（茶の湯文化学会理事・裏千家正教授）の裏話を交えた解説を聞きながら、大変充実した見学会でした。

一方、遡って4月22日（金）に、当支部も名を連ねている中部インテリアデザイン連絡会のリレーセミナー

で、建築家・鈴木幸治氏による講演会を開催しました。演題は「エクステリアにつながるインテリア」で、建物の内と外の関係の重要性に目を向ける貴重な講演会となりました。将来の確固としたデザイナーを目指す人々にとっても大変有意義な内容でした。

□関西支部

支部長 片山勢津子（京都女子大学）

支部総会の報告と見学会の予告

6月11日15:00～17:00、グランフロント大阪のナレッジサロン会議室において、平成28年度の支部総会を行いました。前年度の事業報告と決算報告、次年度の事業計画などが審議されました。

総会終了後、ナレッジキャピタル内のリニューアル施設「ザ・ラボ」「住ムフムラボ」を見学しました。「ザ・ラボ」は、企業や大学などによる新しくユニークな技術を肌で感じられる展示がされており、デジタル試着やスポーツカーのコーナーなど、皆子供心に戻って楽しみました。一方、「住ムフムラボ」では、セキュリティーなど新しくなった展示方法に興味津々でした。その後の懇親会では、各自の近況報告や支部活動についてなど、久しぶりに会う会員と懇親を深めました。

なお今年度の見学会は11月5日の午後から、御影地区の香雪美術館（朝日新聞社創立者で茶人の村山龍平の収集品を所蔵）・旧村山家住宅（1909）・同茶室・旧乾邸（渡辺節設計、1936）などを見学する予定です。詳細は後日、ホームページに掲載します。遠方からの参加も大歓迎ですので、是非お越しください。

□中国・四国支部

支部長 平田圭子（広島工業大学）

1. 支部総会

■日時：平成28年6月4日（土）14:00～15:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A601

■出席者数：9名

今年も総会講演会を皮切りに、順調に活発化している学生ネットワーク「マンセル」に企画・運営協力を依頼し、見学会や講演会などが多数実施される予定である。

2. 総会講演会（支部会員による講師）

*中国インテリアプランナー協会共催

■題目：「畳空間のインテリアデザインと新素材の畳の特徴」

■講師：正岡さち氏（島根大学）

■日時：平成28年6月4日（土）15:30～17:00

■場所：穴吹デザイン専門学校 A502



講師の正岡氏

■参加人数：18名

島根大学のCOC事業の一環である研究を中心に、これまで実施された畳や畳空間に関する調査・実験について報告が行われた。実物の材料を使用して作成されたミニ畳を持って来られ、畳表の素材あてクイズも入れながら、和気藹々と楽しい講演会であった。

3. 学生ネットワーク見学会

「尾道周辺の現代建築インテリア見学会」

■日時：平成28年8月30日（火）10:00～17:00

■場所：「ベラビスタ スパ&マリーナ 尾道」

「リボンチャペル」（設計：中村拓志氏）

「せとの森」（設計：藤本壮介氏）

「せとテラス」（設計：マウントフジ アーキテクツ）

「神勝寺」（設計：藤森輝信氏）

「U2」（設計：谷尻誠氏）

■参加者：11名

天候に恵まれ、絶好の見学日和でした。

「リボンチャペル」は支配人の説明のもと、内外部共に見学でき、スロープが両側から頂上で結ばれることや、無柱構造が素晴らしかった。また、同じく中村拓志氏が手掛けた「ベラビスタ スパ&マリーナ 尾道」のエントランスから見える外部テラスが美しく、次回はゆっくりと泊まりに来たい。

「せとの森」はオールステンレス波板がシャープであったが、軒の出のない屋根は内樋がなく、雨の処理が気になった。「せとテラス」の社員寮ではツネイシホールディングスの案内で室内を2か所案内して頂いた。マウントフジアーキテクツの設計はディテールまで美しかった。30㎡で3万円の家賃は安い。

「神勝寺」は藤森照信氏の寺務所「松堂」や、滋賀の国宝多宝塔を模して建立された建物、滋賀の永源寺より移転再建した含空院など、歴史的に見ても興味深い建築が多数配置されるなど、思っていた以上に大きく、敷地も広く、落ち着いた空間であった。含空院の池に面する



「せとテラス」

縁側は風が通り涼しく、学生たちがくつろいでいたのが印象的であった。昼ごはんは神勝寺うどんを住職の解説のもと美味しくいただいた。隣接して、現在、「禅と庭のミュージアム」が建設中である。9月11日にはオープンする予定だそうである。建築というよりは彫刻のような造形美が面白い。次回にはぜひまた伺いたい。

尾道U2はホテル部分が残念ながら満室なため、内部見学ができなかったのは残念であった。最後に、見学の許可を頂いたうえ、快くアテンダントして頂いたツネイシクラフト&ファシリティーズに感謝いたします。

(藤本和男 記)

□九州支部

支部長 森永智年 (九州女子大学)

熊本地震の現在の状況

今年4月14日と16日に最大震度7を記録した熊本地震が起きました。その際に、インテリア学会関係者の皆様より九州支部へあたたかいお気遣いのメールを多数いただきましたことに心より感謝申し上げます。

あの地震発生から約5ヶ月が経過し、復興も少しずつ進みつつある。しかし、いまだに余震が続いていて、最近も震度4、5程度の大きな地震があった。先日、熊本市に立ち寄る機会があったので、被害の大きかった益城



益城町県道28号沿い



益城町県道28号沿い

町を訪ねたので、現在の様子を報告します。

熊本駅から東に車で40分ほど進むと、九州自動車道の高架が見えてくるあたりから沿道の風景が一変してくる。建物が解体され撤去された空地が散見されるなか、倒壊した家屋が数多く解体撤去待ちの状態震災の凄さを物語っている。

町内の住宅計1万312棟のうち9割以上の1万155棟が被害を受け、損壊がなかったのはわずか157棟だったとのことである。同町の話によると、この地域には古い家屋が多く、全壊した家屋の調査をした結果、旧耐震基準(非耐震化率36.7%)のものが相当数含まれていたということである。

被災者のための応急仮設住宅の建設が同町内では17箇所(1,556戸)で、住民の孤立化を避けるため、高齢者ら1人暮らし向け住宅を団地の中央部に集約し、同じ集落の住民を近所同士にするなど考慮しているとのことである。また、家屋の解体は二次被害発生の危険性が高いもの等から順に公費解体・撤去が行われているが、一、二割程度しか進んでいないのが現状である。また、半壊または大規模半壊の被害の建物については、「住宅に住むための必要最小限の応急修理」に要した費用の一部(上限57.6万円を上限)が補助される制度がある。しかし、その範囲が内装や家電は対象外で、応急仮設住宅(民間賃貸住宅の借り上げを含む)を利用しないことが条件となっている。

被災された住民の住宅状況への早い対応と解決が望まれる。

■ 研究部会だより

□ 歴史部会

部会長 河田克博 (名古屋工大)

今年度の見学会は、大会に合わせて大会実行委員会と

の共催で、2016年10月22日（土）に名古屋にて開催いたします。見学建物は、江戸時代の内外部装飾の豊かな建中寺、近代洋風建築の揚輝荘、近代和風建築の龍興寺客殿の3物件を予定しています。すでに7月の「参加申込書」など同封の案内で前触れしておりますが、お陰様で、参加予定者が42名（ほぼ満杯）となりました。満足していただけるような見学会になれば幸いです。

□計画・デザイン部会

部会長 栗山正也（KDアトリエ）

学会設立時に調査研究部門の1領域として計画部会は発足しました。その後構法部会を併合し、計画・構法部会として数年活動を続けましたが、更なる調査研究予算の縮小状況から、デザイン部会も併合し計画・デザイン部会として現在まで活動を続けてきました。

この間、特定テーマ研究会を立ち上げ、必要な場合関連業界組織の協力を募り、以下のプロジェクトを実行してきました。

1. [インテリア工事標準仕様書]研究会（1999～2007）
・主査 小原誠
2. [インテリア学体大系]編集特別委員会（2009～2011）
・主査 湯本長伯
3. [インテリア環境評価]研究部会（2012～2017）
・部会長 加藤力・主査 仲谷剛史

これらは、それなりの成果が得られましたが、研究テーマは必ずしも学会の総意に基づいているとは言えず、部会有志の発案で進行してきました。

学会として調査研究部門への限られた予算配分をより有効に活用するには、このような変則的な部会活動ではなく、学会全体を主体とした組織体の中から有益な研究テーマの提案を募り、選定されたテーマ研究を受精していく方向が好ましいと考え、総務委員会に検討をお願いしました。

検討の結果は理事会にも諮られ、当部会は廃部の方向で研究部門の新しい活動組織の改革が進行中です。

ここで、長らくご協力頂いた関係者皆様に心より御礼申し上げます。

□人間工学部会

部会長 白石光昭（千葉工業大学）

人間工学部会では毎年1～2回程度の研究会を実施していますが、なかなか皆さんのご希望に沿った内容の研究会を開催できているかどうか不安な点があります。そこで、今回は研究会・見学会等のテーマ募集のお願いを

致します。

今年度も研究会・見学会等につきましては現在企画段階ですが、会員の皆様から研究会テーマのご希望があれば、ぜひご連絡頂きたいと考えております。（次のメールアドレスまでお願いいたします。mitsuaki.shiraishi@it-chiba.ac.jp）。

計画・デザインの分野は幅広い内容が含まれており、人間工学だけで研究会を開催することは大変難しいと考えておりますので、人間工学に多少でも関わるテーマであればなんでも結構です。皆さんからのご要望を頂き、研究会を企画していきたいと考えております。テーマが確定しましたら、これまでのようにお手紙等でお知らせいたしますので、お待ちください。

□教育部会

部会長 河村容治（河村工房）

今回はありません。

■事務局より

白石光昭（千葉工業大学）

事務局からは、下記についてお知らせとお願いを致します。

1) 年会費の支払について

年会費の支払依頼を致しましたが、まだお支払いが済んでいない方は早目のお支払をお願いいたします。

2) 準会員の継続について

これまで準会員だった学生の方は、卒業後に継続して本学会の正会員になれるか、退会されるかを事務局までご連絡ください。これまで、連絡を頂ける方は少なく、卒業後の会報や論文集等の送付等に支障をきたしておりますので、よろしくをお願いいたします。

最後に、皆さんご存知のように、毎日事務局を開いているわけではありませぬので、ご不便をおかけしていることもあると思いますが、お問い合わせはできるだけメールにてお願いいたします。

■ 編集後記

棒田邦夫（金沢学院大学）

総会後の会報第57号大変遅くなって申し訳ございませんでした。組織の改編や小原二郎先生の哀悼文依頼などがあり、私自身会報の手順もわからず手間取ってしまったことが原因かと、深く反省です。

とにかく発行できたことで、今後のタイムスケジュールも理解できたように思います。

今号は小原二郎先生の哀悼文の掲載があったので、「インテリアの行方」はお休みさせていただきました。次号は大会記事が中心となりますので、年明けの3月発行の会報に掲載させていただきます。楽しみになさっている会員の皆様には大変申し訳なく思っております。

会報第57号発行が遅れたことで、次号への準備期間が詰まってきてしまいました。が、次号は早め早めの対応をしたいと考えております。大会後早々に原稿依頼をお願いすることになると思います。どうぞご協力よろしくお願いいたします。

また、小原二郎先生のご逝去を知り、生前いろいろと為になるお話をお聞かせいただいたことを思い出し、当

学会の重鎮の方々のお話も後世に残してはどうかと考えています。この会報を通じて掲載をしていきたいと存じます。原稿執筆のお願いがありましたら快くご承諾をお願いいたします。

暑かった日々から少々涼しい秋へとりましたが、学会員の皆様体調を崩さないようお体にお気をつけてください。

今後ともよろしくお願いいたします。

■日本インテリア学会会報第57号（2016. 9. 30発行）

編集者： 棒田邦夫

発行者： 直井英雄（日本インテリア学会会長）

広報委員会： 棒田邦夫、小俣祐樹、松田奈緒子

電話・FAX：076-229-8884

e-mail：jasis.koho@gmail.com

■事務局

日本インテリア学会 事務局 押切泰子

〒275-0016 千葉県習志野市津田沼2-17-1

千葉工業大学 白石研究室気付

電話：080-2386-5652 FAX：047-478-0552

e-mail：jimukyoku@jasis-interior.jp